



武豊町まち・ひと・しごと 総合戦略について

令和7年6月
武豊町企画政策課

目次

1

総合戦略とは

2

地方創生が目指すもの

3

みらい会議の役割

4

これからの総合戦略

1 まち・ひと・しごと総合戦略とは？

人口減少、少子高齢化、および東京への一極集中に歯止めをかけ、地方に活気を取り戻すことと、活力ある日本社会を維持することを目的とした地方創生に資する計画

つまり

地域の経済や社会を活性化させるため、人口減少対策、少子高齢化対策などの、具体的な取組の方向性を示す計画
➤ 言えば地方創生の指針となる計画

まち・ひと・しごと創生法(2014年)制定

➤ 都道府県・市町村において「地方人口ビジョン」「地方版総合戦略」策定

武豊町

2015～
2020

「第1期武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」

2021～
2025

「第2期武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」



しごと

地域における魅力ある
多様な就業の機会
の創出

まち

一人ひとりが夢や
希望を持ち、豊かな
生活を安心して、
営める地域

ひと

地域社会を担う
個性豊かで
多様な人材の確保

一体的に推進していく

地方創生とは人口減少に伴い、地域経済が縮小していくことに対し、地方が成長していく力を取り戻すことを目指しています。

4点の基本目標（地方が推進すべき重点的な取組）

1：地方に仕事をつくる

➡地方における安定した雇用を創出する

2：人の流れをつくる

➡地方への新しいひとの流れをつくる

3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

➡若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

4：魅力のある地方をつくる

➡時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守り、地域と地域を連携する）

第2期武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性

基本目標 1. 若者や子育て世代に選ばれるまちになる

●若い世代を中心とした
プロモーションの強化

●「子育てしやすいまち」としての
魅力向上

基本目標 2. 人を引き寄せ、地域経済を活性化させる

●安定した雇用の創出と
働きやすい環境づくり

●地域資源を活用した
まちの活性化

基本目標 3. 次世代を育て、持続可能なまちをつくる

●まちづくりへの参加促進と
きっかけ・場づくり

●カーボンニュートラルを目指した
まちづくり

3 たけとよみらい会議の役割

(設置)

第1条 武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部設置要綱（平成27年武企発第1032号）第1条に規定する目的を推進するにあたり、**専門的見地から意見を聴取するため**、たけとよみらい会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議は、次に掲げる事項について検討し、町長へ提言するものとする。

(1) **武豊町の人口動向や、将来推計人口の分析及び中長期の将来展望**（以下「武豊町人口ビジョン」という。）に関する事項

(2) **武豊町の人口動向や産業実態等を踏まえた政策目標及び取り組むべき施策等**（以下「武豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。）に関する事項及び、**取り組み成果に関する事項**

(3) その他必要と認める事項



武豊町の事業・取組を客観的な目線で評価

みなさんのご意見が町政を動かすきっかけになることも。

-KPI（重要業績評価指標）評価-

KPI= Key Performance Indicator／重要業績評価指標
KPI達成が最終的な基本目標＝KGIの達成に繋がる

KGI

基本目標 1. 若者や子育て世代に選ばれるまちになる

施策①若い世代や子育て世代を意識したタウンプロモーション

KPI 町公式SNSで年間に投稿（発信）した件数 250件

施策②まちへの愛着心の共有と増進

KPI 中学生意識調査にて「武豊町のことが好き」と答えた中学生の割合 90.0%

施策③妊娠・出産・子育てに寄り添うまちづくりの推進

KPI 町民意識調査における、0～18歳の子どもを持つ親の子育てしやすさに対する満足度 50%

施策④子育てと仕事の両立がしやすい環境づくりの推進

KPI 乳幼児健診の間診で、「お父さんがよく育児をしている」と答えた割合 65.0%

取組・アイデアの創出



KPIの数値が
伸び悩む原因は？



数値向上に繋がる効果的
な事業・取組は？



目標値に届いてなくても
手応えのある事業は継続
すべき

多様な視点から評価
KPIの数値や取組内容等
に対し、ご意見を聴取
頂いた意見は各課に共有

目標達成

(国) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 (2019~2024)

抜本改定

(国) デジタル田園都市国家構想総合戦略 (2023~2027)

総合戦略 (2027年度までの5か年計画) の基本的考え方

「全国どこでも誰もが
便利で快適に
暮らせる社会」を
目指す。



デジタルの力を活用して
地方創生を加速化・深化し、
各地域の優良事例の
横展開を加速化する。



これまでの地方創生の
取組についても、
改善を加えながら
推進する。



「デジタル技術の活用」「DXの推進」を前面に打ち出した内容

武豊町の現状とこれから①

地方の社会課題解決

01

地方に仕事をつくる

中小・中堅企業DX、地域の良質な雇用の創出等、スマート農業、観光DX等

02

人の流れをつくる

移住の推進、関係人口の創出・拡大、地方大学・高校の魅力向上等

03

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育ての支援、少子化対策の推進等

04

魅力的な地域をつくる

地域生活圏、教育DX、医療・介護DX、地域交通・物流・インフラDX、防災DX等

- ①総人口は「横ばい」。数年後に「減少」
- ②自然減が進行する一方、転入数>転出数
- ③製造業が中心的な産業
- ④人材の確保が十分にできていない企業・事業所が増加
- ⑤デジタル技術の活用、DXの推進に関する取組が動き出したばかり（DX推進計画策定中）



これまでの取り組みの方向性に、デジタル技術の活用に関する内容を取り込む必要がある。

武豊町の現状とこれから②

(1) 計画期間

令和8年度～令和12年度

(2) 策定方針

国が示す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」及び、「地方創生2.0」を土台とし、本町の実情に即した内容とする。

(3) デジタルの活用

第2期の目標を継承しつつ、デジタルの力を活用した施策を盛り込んでいく予定。

武豊町の実態に即した形で「デジタル技術の活用」「DXの推進」に力を入れていく